

地質文献目録の45年

はじめに

日本の地学関連の文献情報を納めた地質文献目録の45年間分が1983年、1984年分を1991年に出版したことによりようやく1990年までが欠落無しに出版された。1945年を始点に、採録を始め、昭和32年に初版(1945~1955)が発行されてから今日に至るまでの途上は決して順調では無く、様々な事情から刊行を中断せざるを得ない事も度々あった。しかし、この間も、文献を選びカードに記載するという作業は営々と続けてきたことが、今日の刊行通貫の支えとなったと考える。継続は“力”というように45年間の収録論文数は12万5千5百件に達し、研究や調査業務の支援という役割を果たすに十分な量に達した。

更に、1986年以降はデータベース化され、その普及版としてフロッピーディスクでの利用も開始したので、多くの方々の幅広い利用を期待している。

文献情報の生い立ち

情報の先駆者：今は“情報”がもてはやされる時代であるが、地質学の分野で情報を先駆的に手掛けられたのは、ご存じのように藤本治義先生である。先生は昭和17年(1942)に「日本地質文献目録」(地人書館刊)を編集、文献目録の必要性を説かれ、自ら実行された。序文に「日本に地質学が興って65年になる。日本の地質誌を編さんしてみたいと思っ、まず、文献の整理から始めたが...。せめて文献だけでも整理して出版すれば便利であろう、と思っ、始めた。ところが、いざ始めてみると非常に大変な仕事で、何度か中断しそうになった。恐らく妻と息子らの協力がなかったら達し得無かったであろ

年	地質調査所文献情報活動の歩み
1949	所長直属の単独課として「資料標本課」新設、図書室として発足
1950	地質調査所月報創刊
1957	地学文献目録(人名別)発行
1959	英文地質調査所出版物目録発行
1960	国内雑誌・外国雑誌・地図所蔵目録発行
1963	日本地質図索引図発行開始
1965	地質文献目録、年刊発行開始
1969	地質調査所出版物目録発行
1977	AGI:GEOREF MT導入、文献検索開始
1979	筑波研究学園都市に移転
1982	GEOREF、工業技術院RIPS各研究所共用データベースの1つとなる
1984	工業技術院16研究所所蔵の外国雑誌データベース構築、出力して冊子目録発行
1985	同上、国内雑誌構築、冊子目録発行
1986	日本地質文献データベース:GEOLIS構築開始
1989	GEOLIS簡略版フロッピーディスク作成試行配布
1991	地質文献目録、日本地質文献目録の45年間、通年完成

う」と言う内容のことを述べておられる。収録総数は約6千件に達している。

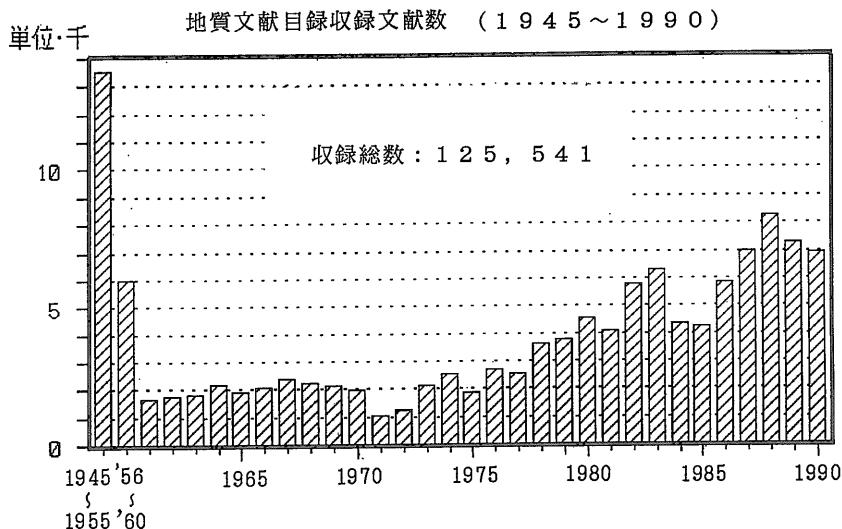
この「目録」は昭和31年に改版(1873-1955)され、改版作業はまたしても藤本先生ご一家総動員で進められたと、改版の序文で述べられている。

地質調査所の文献目録：藤本先生の改版作業と時を同じくして進められたのが、地質調査所創立75周年記念出版物のひとつとして計画された「地学文献目録(1945-1955)」で、昭和32年に出版された。次の5年分(1956-1960)は1冊に、名称を「地質文献目録」と改め、その後は年刊で発行された。

1986年版からは、今までの手作業から機械処理に移行しデータベース化を行い、データベースから出力して目録を発行する体制になり、名称を更に改め「日本地質文献目録1986」として新たな出発となった。

このように刊行されてきた当所発行の「文献目録」は初号の発行以来最新号の1990年版で32冊となった。

GEOLISの誕生：数十年の間行ってきた手作業での文献目録作りは、激増する情報量に対応しきれず、1986年にコンピュータを使用しての機械処理に切



り替えた。これが日本地質文献データベースすなわち GEOLIS である。

このデータベースは、工業技術院筑波研究センター共同利用計算機(RIPS)の上に置いてあり、入力項目は41で様々な角度からの検索が可能である。が、内部利用の施設のため職員以外の利用が出来ない欠点がある。

GEOLIS FD 版の登場：多大な人手と経費をかけてのデータベースなので、幅広く利用して頂くのは、私達作成者の願いでもある。そこで、普及版としてフロッピーディスクでの利用を考えた。

データベース本体は大型計算機にあるので容量や機能は十分整っている。しかし、フロッピーディスクでは容量に限界があるので、入力項目を必要最小限にしぼり、1年分のデータをフロッピーディスク2枚に納めた。FD版はMS-DOSで読み取れる形式になっており、1986年~1990年までの5年分が試験的に一般に配布されている。

文献情報の現状

文献目録の情報量：目録の名称変更、採録型式など多少の変遷があったものの今日まで引き継がれた。1945年から1990年までに収録した論文数は12万5千5百件を越えた。各年別の収録状況は図に示す通りである。地質学の分野でも1980年代に入って情報量が急激に増加していることを示している。1984年、1985年の減少は資料室の人手不足のため学会演旨集からの採録を除外したためである。

GEOLIS の収録範囲：「地質文献目録」時代から、採録の範囲は日本に関する事を原則としてきたが、データベース化するに際して改めてその範囲を確認した。つまり、

- 1) 日本及び日本周辺海域を扱った論文
- 2) 日本人の著者による論文
- 3) 日本で出版された論文

のいずれかに該当する論文を掲載することとした。

地学関係の世界的な文献データベースとしては「GEOREF」が挙げられる。The American Geological Instituteが作成しているもので、年間7万件を収録し、日本の文献も相当数含まれるデータベースである。この巨大なデータベースに勝る範囲は日本に関する文献に絞ることと考えたからである。

採録文献が手元に：目録に収録した文献は当所資料室が収集し受け入れた資料すなわち単行本、雑誌、報告書、地質図類、等の中から関係論文を選択している。そのため「文献目録」「GEOLIS」に収録した文献は地質調査所資料室に保管・管理されている。検索して必要な文献が判ればすぐにその文献に出会えるのは大きな特徴と云える。

当所資料室は、データベースの質の向上は文献の収集量にあると考え、収集に重点を置いた業務を志している。

その他の文献情報：地質調査所が作成している文献情報は、この他に「日本地質図索引図」がある。

国土地理院発行の20万分の1地勢図を基図にシート図や論文中の付図など地質図類の区画をプロッ

トしたもので、1900年からの文献が収録され、近年は5年毎に発行されている。この作業も機械化に移行するための取り組みを始めたところである。今後の課題はバックナンバーのデータベース化：地質文献目録1983年版と1984年版は最近発行された。印刷時の電算写植のデータからフロッピーディスクへの転化を試みたところ、手作業での修正を加えれば転化が可能である見通しがつき、現在作業を進めている。同時にデータベース化も試みているところである。

今後の課題は、1945年から1985年までのデータをデータベース化し、普及版としてFD版あるいはCD-ROM版を作成することである。もし、これが実現すればGEOLISは12万件を越す情報量を抱え

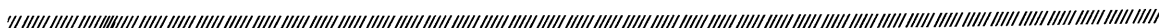
るデータベースとなる。

おわりに

藤本先生の「目録」の序文にもあるように文献情報作りは容易な仕事ではない。まして情報量の激増したこの頃ではなおさらである。日本の地質学のセンターである当所以外では、このような業務を継続することは難しいことと考える。

文献目録1991年の収録は9千件に迫り現場は毎日目の回る様な忙しさである。この中で過去の収録分のデータベース化を検討し始めており、各方面の方々のご協力とご理解を切望している。

(本庄 時江・曾屋 真紀子・菅原 義明・斎藤 次男)



◇5月号で地質調査所月報2号までの内容を紹介したので、それ以後の目次を以下に示します。

地質調査所月報

第43巻 第3号

Shigeru TERASHIMA, Shiro ITOH and Atsushi ANDO : 1991 compilation of analytical data for silver, gold, palladium and platinum in twenty-six GSJ geochemical reference samples..... 141

寺島美南子・井内美郎：霞ヶ浦、手賀沼底質中のクロロフィル類の初期続成作用 153

安川香澄・原保人・西沢 修・佐藤隆司：クラック群による弾性波散乱減衰のモデル実験 165

資 料

広島俊男・駒澤正夫・須田芳朗・村田泰章・中塚 正：青森地域重力図および秋田地域重力図における海域ブーゲー異常値の修正について 175

第43巻 第4号

特集 伊豆-小笠原弧の海底地質（その2）

Toshitsugu YAMAZAKI : Heat flow in the Izu-Ogasawara (Bonin)-Mariana Arc 207

Yukinobu OKAMURA, Fumitoshi MURAKAMI, Kiyoyuki KISHIMOTO and Eiji SAITO : Seismic profiling survey of the Ogasawara Plateau and the Michelson Ridge, western Pacific : evolution of Cretaceous guyots and deformation of a subducting oceanic Plateau 237

Akira USUI and Akira NISHIMURA : Hydrothermal manganese oxide deposits from the Izu-Ogasawara (Bonin)-Mariana Arc and adjacent areas 257

地質調査所の出版物について

問い合わせ：地質情報センター情報管理普及室
Tel. 0298-54-3606